

令和元年度 自己評価【分掌・学科・学年】

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

島根県立出雲農林高等学校

部	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	評価	反省及び次年度への課題等	学校評議員評価
				A	B	C				
総務部	PTA活動の充実	PTA会報等の発行により、保護者への情報発信を行う。	PTA会報等についての保護者アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	100%	A	高評価におおごることなく、内容の充実をはかっていく。また電子データでの発信も充実させる。	A
	広報活動の強化	ホームページ更新講習会を複数回開きと同時に、担当部署に働きかけながら、更新回数を増やす。	ホームページに関する保護者アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	98.0%	A	各分掌・学科・部活動の担当者による積極的な情報発信のおかげで更新頻度が高くなっている。来年度は全面リニューアルにより、さらに充実したホームページと確保する。	A
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をととして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒アンケートで遅刻0に向けて努力したと回答した生徒の割合	A	B	C	95.1%	A	遅刻に対する生徒の意識は年を追うごとに高まってきており、さらに皆勤という高い目標を目指している。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各専門資格への挑戦をととして生徒のキャリアアップに努める。	1,2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合。3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合。	A	B	C	1年:59.3 2年:60.7 3年:85.4 (1/29現在)	C	全員受験のものや希望者受験のものなどがあるが、各教科・各学科において、組織的な指導が行われ、成果があった。しかし、2年生、3年生の資格取得率は少し下がっている。	B
生徒指導部	校外外で積極的に自ら挨拶をする	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	校外外で挨拶ができていたと答えた生徒、教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	94%	A	挨拶運動やその他の様々な場面で指導・活動を継続し、挨拶が溢れる学校をめざしていく。	A
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることを呼びかけ、学期に1回の街頭指導について連携しながら注意・指導をしていく。	交通マナーを意識し、自転車の安全運転で登下校をしていると答えた生徒アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	97%	A	生徒と教員(44.2%)に差がある。生徒は自覚して運転をしているようだが、苦情電話や事故(もらい事故も含めて)の絶えない1年間であった。継続的に粘り強く交通マナーと命の大切さを指導していく必要がある。	A
進路指導部	体系的・計画的な進路指導体制の構築	進路ガイダンス・進路ミュージカル・各種テスト・CCP(1・2年生)・面接指導(3年生)等は進路決定に役立っている。	生徒アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	94%	A	1年:93.3、2年:88.8、3年:99.3と2年生の満足度が低いので、2年部のスタッフを配置したい。詳細は各行事のアンケート調査を来年度に生かしたい。	A
	進路検討会や進路希望調査を活用した進路指導	進路検討会や進路希望調査は生徒理解に役立ち、進路決定を促している。	教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	89%	B	これから行う2年生の進路検討会で、議論が深化するよう工夫したい。2年生の進路希望調査と進路関係のプログラムとの関係性を考慮した上で、効果的な希望調査の時期を検討したい。	A
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。	教職員アンケートの数値(A+B)が80%以上	A	B	C	90.2%	A	保健関連行事では、先生方の協力によりスムーズに運営することができた。ただ、環境整備作業では用具の不備や不足があり迷惑をお掛けした。用具の補充及び整備を進めたい。また、老朽施設が多いので、事務室と連携して引き続き良好な教育環境に努めていきたい。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教職員アンケートの数値(A+B)が80%以上	A	B	C	90.2%	A	SCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し生徒の情報共有や支援に努めてきたが、多様な生徒が入学してくる中で不適応や不登校生徒が増えている点を憂慮している。さらなる教育相談活動の充実を努めていきたい。	A
図書研修部	読書・学習・情報センターとしての機能を発揮し、教育活動の展開に寄与する。	生徒・教職員のリクエストに対応する。多様な資料の収集と提供に努める。新着資料や図書館利用についての広報活動を行う。	教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	96.1%	A	図書館を活用した授業数、貸出数ともに昨年を下回る結果となった。様々な分野で役立ててもらえるよう、資料の充実と校内での連携に努めたい。	A
	知的好奇心を醸成する学びの場、安らげる場として環境を整える。	生徒の利用や動線を考えて図書館を作る。生徒主体の活動をサポートする。効果的な資料展示を行う。	生徒の「図書館の設備や雰囲気は利用しやすい」というアンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	97.2%	A	学校生活のあらゆる場面で気軽に図書館を活用してもらえよう今後とも気を配っていききたい。	A
寮務部	基本的な生活習慣を身に着ける指導を行う。	寮生への定期的な指導	教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	67.3%	C	体調不良等もあり、生活時程通りに活動することが難しい場面が多々あった。体調管理についても意識を高めるような声かけを行いたい。	B
	寮内外の環境整備を行う。	寮内外の定期的な掃除を行う。	教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	53.8%	C	大社高校との共同利用の開始に合わせて、環境整備について改善されるよう検討したい。	B
農場部	研究活動を推進する	①実験・実習の積極的な展開 ②生徒自らが課題解決学習に積極的に取り組む	教職員アンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	82.4%	B	各学科多忙感もあり、生徒任せの研究になりすぎたり、教員主導になり過ぎないようにする。	B
	専門科目関連への進路実現	①専門関連への就職・進学指導 ②農林大学校への進学指導 ③4年生大学への進学指導	生徒・教職員の「専門関連への進路実現」を問うアンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	86.3%	B	専門関連科目への関心意欲はあるが、関連産業への理解を深めていくようにする。	B
植物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①96.7% ②100%	A	学年が上がるにしたがって、ルーズになる面が見られる。ON、OFFの切り替えを徹底し、指導していききたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①94.5% ②65.2%	B	1,2年生の資格取得に対する意識や意欲が低い。授業や補習等で意識・意欲を高めるよう工夫して指導していききたい。	B
環境科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	96.1%	A	実習などをとおしてルールやマナーを意識した活動ができるように指導していききたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	75.1%	B	1,2年生の資格取得に対する意識が低い。今後さらに課題研究、資格取得の取り組みの充実を図る。	B
食品科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①100% ②94.4%	A	今後も高評価が続けられるように、授業開始前の声かけや確認を継続していききたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①93.5 ②56.7	B	①探求型活動の充実を図るために、教材や指導方法の充実を図る。 ②食品関連の資格取得の指導方法と指導回数などを再考し、満足度を高める。	B
動物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①97.1% ②93.3%	A	専門教科での姿しかわからない面があるが、見える範囲では意識を持って行動している。継続した指導をしたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上	A	B	C	①93.3% ②56.1%	C	プロジェクト学習には熱心に取り組んでおり成果も出ている。アグリマスターや資格取得者も増えている一方で肯定感が低い。状況を分析し対応したい。	B
一年部	目標に向けて行動を起こす(自らを育てる)人間力を持った生徒を育成する	各クラスや学年集会等での指導	生徒の「自己評価2・4・9・10・11・14」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上	A	B	C	84.5%	A	「平素から家庭学習に取り組んでいる」が約40%。それ以外はほぼ90%前後という結果から、学習を含めた学校生活は意欲的だったが、家庭学習へつなげていない事が今後の課題である。	A
	学ぶ意義を知り、地域へ視野を広げようとする人間力を持った生徒の育成	マナトレを中心とした学習への取り組み、専門科目への取り組み	「自己評価7・8・15・18」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上	A	B	C	81.3%	A	部活動の参加率が低い学年であり、かつ、やめる生徒もちらほら見られるため部活動満足度は66%となった。部活動への参加を継続してすすめる事が課題。マナトレや学習に対する意欲は高いため、学年、クラス、各科で資格取得に意欲的に取り組ませることが必要である。	A
二年部	自他の感情や生命を大切にす人間力の育成	各クラスや学年集会での指導 ・学年集会、臨時学年集会の開催 ・学年だよりの定期発行 ・週1回、学年会での情報共有	生徒の「自己評価9～15」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上	A	B	C	92.1%	A	学校生活に関する自己評価は高かった一方、学習活動への評価は低かった。授業への参加意識、家庭学習、資格取得に向けて改善していくことが課題として挙げられる。	A
	進路実現に向けた、自ら学ぶ人間力の育成	マナトレへの取り組み ・週1回的小テストの実施 ・定期考査へマナトレの学習内容も含み、学力の定着を図る。	マナトレの認定テストに最終的に合格した生徒の割合	A	B	C	95.3%	A	進路実現の基礎となる学力向上の大切さを学年会や学年だよりで伝えている。現在、マナトレ挑戦編に取り組んでいるが、週1回的小テストや定期考査へマナトレの内容を含むなど、基礎学力の定着化が図られている。進路実現に向け、引き続き学力向上や資格取得に意欲的に取り組ませたい。	A
三年部	自ら考え、自覚と責任ある行動が実践できる農業高校ならではの人間力を持った生徒の育成	【生徒アンケート9～15】について、各クラスのHR活動や学年集会(4月、6月、7月、9月、12月、1月)を通して、生徒に呼びかける。学年全体での大縄飛び大会やドッジボール大会を開催し、他クラスとの交流を深める。(年間目標)	生徒の「自己評価9～15」を問うアンケートの数値(A+B)が90%以上	A	B	C	92.8%	A	高評価ではあったが、「平素から家庭学習に取り組んでいる」の生徒満足度が25.2%という低さを考えると、学習の習慣化への意識付けの取り組みが十分でなかったことが反省であり今後の課題である。	A
	進路実現に向け、基礎学力を定着させ、主体的に学習理解に努める生徒の育成	週に1度の学年会を必ず開催し、生徒の情報交換を密に行う。また、困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受ける機会を設ける。	進路決定の割合(100%)	A	B	C	98.0%	B	学年会には必ず進路指導部長に参加してもらい、進路指導部との連携は十分取ることができた。本年度は健康相談部からの支援を加え、きめ細やかな進路指導ができたと感じている。1月末現在で3名の進路未決定者がいるが、引き続き粘り強く支援を続けて目標を達成したい。	A